

令和2年度 ミニバス委員会保護者研修会
「部活動（社会体育を含む）の現状と保護者会の組織・運営について」

船橋市バスケットボール協会
ミニバス委員会

(1) 船橋市ミニバス委員会の活動について

- ①指導者は市ミニバス委員会の役員に登録をして、それぞれの委員会の仕事に携わっている。この役員登録を行わないと市大会の公式戦のベンチには入れない。(指導者はチームの指導だけではない)
- ②船橋のチーム組織の考え方
個人は1年間同チームに在籍すること。
移籍する場合は県協会の承認が必要。移籍後、大会に間に合うようであれば登録できる。
- ③プロバスケットボールチームの千葉ジェッツが船橋市をホームタウンとしている。ジェッツを応援するのは、船橋市政や市バスケットボール協会の方針でもあり、ミニバス委員会でも協力していく。
- ④市内指導者講習会、抽選会・役員会で共通理解を図っている。
- ⑤活動内容や指導者・保護者への連絡は、ミニバス委員会ホームページやメールで情報を発信する。
船橋市ミニバス委員会ホームページ・・・<http://fba-mini.sports.coocan.jp>
船橋市ミニバス委員会メールアドレス・・・8604bnbz@jcom.zaq.ne.jp
※登録をお願いします。『チーム名、男・女』『保護者代表』『ご本人様のお名前』を送信してください。



(2) 部活動（学校体育）の現状

- ①船橋市内は他市に比べ部活動として活動しているチームが多くある。主にその学校の教員が指導しているが、県全体・全国を見ると、一般の社会人コーチ、教員でも自分の学校ではない社会体育やスポーツ少年団のチームを指導しているのが一般的である。
- ②指導者の負担（学校業務＋部活指導）
教員が指導を辞退した時点で、部は休部や廃部となることが考えられる→社会体育に移行
スポーツをやりたい子が勤務校にいて、教員も一緒にやりたいと考えて部活動は成り立つ。
顧問全員が希望しているわけではない。
教員が部活動を担当することは「あたりまえ」ではないこと。
中には、子どももバスケットも大好きで、一緒にやるのが生き甲斐、と言う人もいますが・・・

指導者（教員）自身の家庭問題の蓄積。（休日も家庭にいない）

③近年若い指導者の増加に伴う課題

年度初めの指導者講習会・ベテラン指導者との個人的な合同練習や練習の見学・選抜チームを通しての技術と理論の指導・練習試合等でアドバイスしている。また、保護者会との関係づくりのアドバイスもするケースも。保護者の方も積極的にコミュニケーションをとってほしい。教師の本業は教科指導・学級経営。部活動ありきではない。なので、特に若い指導者に結果や技術の向上のみを求めないでほしい。

(3) 社会体育活動の現状

①船橋市内の社会体育のチームについて

船橋市内の社会体育のチームは、教員の転勤でやむなく社会体育に移行したケースが多い。

②市の施策でJSCの推進特区のチームもある。

JSCの中にも、該当している学校の教員が指導者になっているところもあるし、違う学校の教員が指導者になっているところもある。また、地域の社会人と協力して指導しているところもある。

③学校体育と違い、施設借用手続きもその都度年度当初に申請しなければならない。

④ボールなども基本的にはチームや個人で用意しなければならない。

⑤指導者への人選は、保護者会が行うことが多い。目先にとらわれず、長い目で子ども達を育てることのできる人選ができる。

⑥指導者の突然の異動がない。

⑦指導者が見つからない場合がある。

⑧部員を集めることが困難。＝学校体育の部活動も同じ

○部活動と社会体育、どちらがよいとは言えません。子ども達にとって良い組織であることがチームのあるべき姿だと思います。

学校の先生＝7時頃から7時頃まで一緒。学校・学年・学級内のことを部活に持ち込まれる。人間関係もずっと一緒。

社体のコーチ＝練習に行くことで気分が切り替われる。色々な学校の友達ができる。

○部活と社体の違いを知った上で、お互いに分かり合いたい。たまたまお子さんが通う学校のバスケ部が社体であったり部活だったりするだけで、子どもがバスケットを楽しく行うことに変わりはない。

(4) 保護者会組織・運営に関すること

①保護者会組織

規約等を有して進めていくとトラブルが減る

②自家用車での送迎問題

承諾書をもらう形をとっているところもある

③指導者へのお弁当の支給

チーム内で確認を

④指導者との関係

子供達のために良い関係を

⑤保護者のコーチ化

試合中応援席から指示を出す親。審判にクレームを言う親。

→絶対に自チームに有利に働くことはない。

⑥保護者同士の関係

大人の世界は難しい。意見の食い違い。考え方の違いがあって当たり前。

役員や世話人の方々の苦労を察する。少しでもわかりあいたい。

◎トラブル（指導者と子供や保護者、保護者同士）が発生したら、まずはチーム内で解決することを試みるようお願いします。その際の言い方にご配慮ください。それでも解決が難しいようでしたら競技委員長、副委員長までご連絡ください。

※大人の世界は、やがては子ども達に影響を及ぼす。子どもがいるから部活動がある。子どもはその
主役であり、保護者はその活動を支え指導者は、子ども達の夢を叶えられるように努力をする。互
いの「感謝」を常に忘れず、トラブルには冷静な話し合いを持って対処したい。

(コミュニケーションの重要性)

トラブル例) 保護者間でのLINEでの悪口、仲間はずれ、無記名の投函、メールなど
市内のチームでもトラブルが起こっている。

※子どもを頂点とした三位一体の組織

良い組織が良い子どもを育て、強いチームになっていき、良い伝統を作っていく。また、良い指導
者を作る。今一度、自チームを見つめてみましょう。

